

【所 感】

長崎市議会議員 幸 大助

福州市友好都市提携35周年公式訪問団に参加し、先ず感謝したいと思ったのは、ものすごく歓迎され、移動もすべてチャーターしていただいたバスでの訪問だったことです。そのような中、コース別研修では水道班として、浄水場見学後、先方の事務所にて説明を受け、質疑応答を行いました。翌日には下水道処理場を見学、福州市との友好を深め、長崎市との今後も変わらぬお互いの発展を誓い合いました。三日目は、万福寺を訪問し、長崎市の興福寺にゆかりの、隠元禅師の銅像にお参りさせていただきました。インゲン豆を日本に持ち込んだのが、隠元禅師だと初めて知りました。

福州市の街なみは、マンション建設ブームで、至る所高層マンションの工事中でした。まるで、日本のバブル期のようにでした。

私自身、初めての中国訪問でしたが、いわゆる「近くて遠い国」の言葉があるように、文化の違いをすごく感じました。自動車の右側通行は知ってましたが、クラクションがすごくうるさく、進路変更がまるで、命がけの感じがしました。

最終日に上海へ移動して、長崎魚市アンテナショップで、中国での刺身の拡販の話聞き、長崎県上海事務所を訪問、説明を聞き中国の経済発展の急成長を実感しました。

たまたま、その説明してくれた職員さんが、私の長男と高校時代の同級生で、驚きとともに、現代の若者は世界で活躍しているんだと思いました。

最後に、今回の公式訪問団として参加させていただき、ある意味、世界が広がったと実感しました。